

おおやまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

令和4(2022)年
7月号
通巻623号
毎月23日発行
(題字 矢追日聖)

★発行日 令和4年7月23日
★発行所 大倭出版局
〒631-0042 奈良市大倭町1の12
☎(0742)45-1192
★印刷 大倭印刷 監修
★定価 1部 300円
年間購読料3,500円(送料共)
★郵便振替 01050-6-67002
大倭出版局
URL <http://www.ohyamato.jp>



羊蹄山(蝦夷富士) 北海道小樽市 守谷明宏さん撮影(文・8頁)

講演会「紫陽花邑をめぐる日本のユートピア」より(於:東京)

紫陽花邑に流れる精神 ③ 〈最終回〉

昭和46(1971)年4月25日

法主 矢追日聖(満59歳)

郷土愛は思想に勝る

今の若い子は一つ何かを打ち出した
ら、それにパーツと寄り集まって氣勢を
上げ、ウワーツと烏合の衆みたいに動く。
いろんな団体行動をするけれども、自分
なりの信念と云うか持ち味をみな自覚し
てないんやろか。

おのおのが持っているはずのイデオロ
ギーをサーツと殺してしまつてね。一人
の英雄に同化して付いて行こうとするよ
うな腰抜けばかり。こんな人間がたく
さん増えたつて、世の中は平和にならな
いと思います。

私の家族はじつに平和ですよ。古神道
とか言っている私の横にクエーカーの人
がおつても、みな和気あいあいと話し合
える。こんな場所は日本中を探したつて、
そうあるものじゃないでしょう。自己宣
伝ではなくて、実際、あなたたちも来れ
ばわかります。

家族の中には、京都の町の真ん中でデ
モやった拳句、警官に追われて逃げのび
たという学生もおります。そんな学生が
のんびりボソツと紫陽花邑で生活し
て、なぜ喜んでるのか。ここには窮屈
な理屈や規則が何もありません。だから
心の置き所、安らぎを見つけられるん
です。

デモの後に一人下宿へ帰って孤独にな
った時、やっぱりわびしいんでしょうね。
女の子を抱いてテレビでも見ながら、マ
ンボかなんか知らんけど、音楽のリズム

に何もかも溶け込ませて、自分の観念も意思も全部パーツと消してしまおう。その瞬間だけは、虚しさから逃れられるんじゃないか。今はそうやって気を紛らわせる方法がある。

まだ学生運動に行く子はおりますけど、ケガしないで帰って来いと言つて、ヘルメット持たして行かせます。行ったらよろしいねん。御堂筋でワッショイやったらいい。その程度の運動をやつたつて、国はどうかありません。国を支えるものは、政治や思想と違います。土着の精神、いわゆる郷土愛です。

どんな政府になろうと結構。共産党でも、自民党でも、社会党でも結構。国際問題もありますし、政府はあつて結構だ。けれども、本当に国を守り、我々を安全圏に置くものは、国民の暮らしている土地に対しての愛着心。政治じゃなしに、いわゆる郷里を思う心。日本人にはそれがあります。

科学がどうなろうと、どんな思想が来ようとも、煎じ詰めてごらんさない。そこへ帰一します。ですから私は政治に対しても学問に対しても無関心、哲学もあんまり必要ないわけです。

暮らせるお金さえあればいい

とにかくホギヤアと産まれたら、いざれ死ぬに決まっています。心臓がポツと止まった瞬間に、地位も名誉も財産も一切関係なくなる。そしてお骨が変わってしまう。だったら考えてごらんさない、自分とは一体何だろうかと。

消えてしまう肉体は自分じゃありません。借りものですよ。自分の心、靈魂が本当の自分です。何十億年か続いている地球の上でね、靈魂が肉体を借りて生活できるのは、たった80年、長くても90年、せいぜい100年足らずの間です。死ぬ

までの待ち時間を一日でも悩ま少なくて、みんな楽しく生き延びたい。私はただそれだけです。

けど肉体を持っている間は、飯を食わないと生きていけない。そうすりゃ、やっぱり金も要る。

だから私も金もうけしています。印刷の商売をやつて、建築用のブロックも製造して、作った株式会社

の言葉に汚い意味はありませんよ。生活にどうしても必要な金は稼がなきゃいけない。けど、それ以上の余分な金は不要なんです。

例えば、スズメが山から田へ降りてきて米を食べる。盗人ですな、人間に言わせりゃ。ところが、小さな胃袋が一杯になれば、どれだけ稲穂が残つていても、食べずに山へ帰ってしまう。人間も動物も、全体が生きていくことを、天地自然はやっぱり保証してくれている。

でも今は自給自足の時代じゃありませんので、社会生活に貨幣が必要になる。私の着てきたこの衣類一つとっても、布を織る人、仕立てる人、卸の人、小売の人……自分以外の多くの人が働いた成果です。それをお金さえ出せば手に入れられる。ああ結構やな、貨幣を大事にしよう、という気持ちになります。

天地自然に生かされる喜び

だけど、金を出さなくても空気は吸えます。日本中どこへ行つても、地下のここ(※講演会場のビル)でも空気が吸える。どっちへ行つたつて土はあるし、雨は降つてくれる、晴れになつてくれる。東京へ来ても、金を出さずに空気を吸えるのが非常にうれしいんです。こんなところが結局、私は間違いですね。

ひと握りの土の中に、万物を生成化育してくれるエネルギーが入っている。石器時代の人も、何万年前の人も、きつとそう感じたでしょう。土を握ると、昔の人の感覚に肌で触れる気がしてね。みんなを支えている本当の底力は、土の持つこの力じゃないだろうか。そんなふうに想像する楽しみが私にはあります。あんなたちの世界とは違っているかもしれない。

世間の人は、「私がつつも教祖さんみたいな顔をして、大倭教の御簾の内に納まっておると思っているかもしれない。私は泥パッチ(※野良着の股引)履いて畑へ出て、土を握つております。

私は命令が一番嫌です。「お前あれしろ、これしろ」と自分の意志で人を動かそうとすることが、本質的に嫌なんです。私のそうした態度にみな感化されるのか知りませんが、紫陽花邑におると、命令もしてないのに、何かしらん、みなうまいこと適所適材にはまってくれています。

おかげで夜ふかししていても昼寝していても、私は生活できます。子や孫、ひ孫が仕事してくれる。血はつながつておりませんが、子から孫からひ孫から、私には家族がたくさんおります。今ホギヤアホギヤアの赤ん坊もおるし、幼稚園へ通うのもおる。そんな所へ私がこのこ出て行くものなら、かえつて叱られてしまう。引つ込んでおれと言われます。

まあええわ、息子に任せとけ、孫に任せとけ。すると私は行く所がありません。それで今でも畑へ出て土を握っているわけです。畑仕事は私にしかできませんので、これなら何も言われぬ。まあひとつ、虫の食うような野菜でも畑で作つてやろうかと。虫に食われる野菜なら農薬を使つていない、毒がないと証明済みですから。

いくら虫が湧いたって、紫陽花にたくさんおるいろんな小鳥が寄ってきて食べてくれる。残った毛虫は蛹になり、やがて白や黄色のチョウに羽化して飛んでいく。今時はグリーングリーン、こんな大きい食用ガエルが池で鳴いています。今日ちよつと東京の街を歩きましたら、食用ガエルのオタマジャクシを植木屋が売っていました。うちには池が真っ黒けになるくらいあります。あんなものを都会では金出して買う。なんとまあ、かわいそうに感じましてね。私の優越感もありませんが、紫陽花にみたない所で生活しておると、そういう気持ちになります。

神社仏閣は宗教企業の職場

とにかく、うちの者には「いざれ死ぬことを覚えとけ」と言っております。金もうけは生きるためや、余分にもうけるな。商売することによって得意先やお客さんが喜んでくれたら、それでいいやないか、それが宗教性だと。

紫陽花にはキリスト教徒もおれば、仏教徒もおります。いろんな者がおりますけれど、どんな宗教を信仰していても、和気あいあいとみなが話し合える。既成宗教の壁を超越した、これが宗教の本質だと思います。

現代の宗教団体はこの本質を忘れて、宗派教派を守る事が宗教だと勘違いしている。我が団体を維持していこう、お寺を維持していこう、神社を維持していこう、それが目的ならばそこは宗教本来の場でないに、宗教企業の職場ですよ。

奈良には有名な寺院も多いのですが、宗教企業になっていては宗教とは言えません。坊さんたちは、法衣を着て金もうけしていることになる。まああして飯を食べてるんだな、それも結構やなと

私は思うだけです。

宗教の場は、祭典行事もやるし、法要もする。公共性があり自由性がある場所でないといけないと宗教法人法で決められています。ところがお堂でも山門でも楼門でも、そこへ入る人から金を取っている。つまり、その先は宗教の場と言うより博物館みたいなものです。

私は宗教人として、こんな社会に宗教本来の場もなけりやいけないと思う。本当を言えば、紫陽花はそういう場なんです。紫陽花を使つて社会が幸せになってくれたら、それでいい。

法律上、紫陽花の土地は私個人所有になっています。けれども土地は何億年も前からずっとそこに存在しているのであって、私の物と違いますが。ただ、法律の定めによって、何万坪かの広さがあるこの土地はあなたの所有であると、人間同士が約束する。つまり神さんじゃなく、人間の都合で所有権を取り決めたにすぎません。

そうやって人間が決めた所有権は、人間がうまく活用すればいい。紫陽花の土地をみんなが利用し、人間修練の場にする事で、私は認められた所有権を有効に活かしたことになります。

宗教団体が差別を助長する

私が死ぬまでには土地の所有権を全部、宗教法人の財産に切り換えたい。ところが土地を寄付した場合、世間相場の売買価格になって、その半分以上は税金として納めないといけない。税務署からは「先生やめときなはれ、こんなアホなこと」と言われました。土地を譲ったのに税金をこっそり取られたら、何をしたのかわからない。税金を払うだけの余裕はないし、結局やめました。

商売はいろいろしていますが、紫陽花に全体の

収支はギリギリの線です。でも何年か先、うちの若い者が商売でもうけてくれた暁には、税金を払って宗教法人に土地を寄付します。もうかった金は全部社会に還元したい。宗教法人の所有権に切り換えて、公共の用に供していく、また自由性も持たせていく……と。

「交流の家」も、最初はF1WC(フレンズ・インターナショナル・ワークキャンプ)が建設の話を持って来たんです。Fはフレンズ派というキリスト教の関係でしょ。私をカチカチの神道、右翼のカンカンだと思ひ込んで、初対面の時は構えてましたよ。その人たちが、今は親しげに私のところへやってきました。それがやっぱり本来の宗教やと思う。

キリストがこう言ったからキリストの教えに従おうとか、お釈迦さんがあ言ったからお釈迦さんの教えに従おうとか、縛られる必要は何もありません。おかしな宗教団体が出てきたとしても仲良くして、神ながら言う調和を取らないといけない。神道の根本は調和を取っていくことなんです。

宗教団体に入ると、誰だつて自分の入った団体の奉る宗教が一番いいと考えます。まあ、それはよろしい。ところが今度は他の宗教を劣等視するでしょ。あれはいけない。どの宗教の人であっても、俺のが一番いい、お前も入れと、そういった気持ちがあります。そうすると、宗教によって信心を持つのではなく、宗教団体に入ることで、いわゆる不調和、差別感を持つてしまう。

「欲があつてはいけない」とか「宗教はみな平等である」とか誰もが口では言うんです。でも宗教団体に入つてごらん下さい。それ以外の宗教を差別視するようになる。つまり、宗教団体へ入る第一歩は、まず差別感を持たされること。これは

天照太神^①

「昭和維新、妙法ニヨリキリヌケン」

大倭神宮を拜せる時、

倭姫曰く

「八紘一宇ヲ照ス、吾ガスメミマノ御稜威、コノ闇開キテ、天津御祖ノ出デマス時、真ノ妙法ヲ大倭登比ノモリ天ノヌボコノ立ツルトキ、我が日本ハ世界第一ノクニトナル。コノ各々方々、真ノ妙法ヲ唱ヘラレ一日モ早クコノ闇ヲ開キ天皇ノミ心ヲ安ンジ奉ル。此レガ之ノ日本ニ生ヲウケシ国民ノワザナルゾ。亦タコノ大倭日高見国ニ生ヲウケラレシ人々ハ、コノ「登比の毛利」朝夕礼拝ナシ玉ヘ。聞エルカ邑ノ人、今ハ悪魔ニノロハレテ、イルゾカシ。倭姫ノコノ言葉、神ニ変リテ告ゲ申サン。

日聖ヨ、邑人訪レアルナレバ、之ノ話エトクノユクヤウ教ヘ候ヘ。題目、天津御祖、八紘一宇ヲ照ス光ハ、吾ガ天皇ノオン稜威、君ガ代ハ、千代ニハ千代ニコトホギテ、天津御祖ノミ光ハ、八紘一宇ヲ照スナリ、八紘一宇ヲ照スナリ。

麻ノ如ク乱レシ世、真ノ妙法トナヘ、神代ナガラノ此道ニカヘセ候ヘ。今日本ノ国民ハ真ニ天皇ノ事オモウ者少シ。アーナゲカハシヤナ。天皇ヨ、アンジ

召サルナ。国民イカヤウニナロウトモ吾ガ日本ハ八百萬余ノ神等ガ汝等ヲ守リ玉フゾヨ。

拙ナキワザニテオン前ケガシタテマツリ、オユルシアレ」

倭姫

「此ノ郷ヲスベ玉フ土産大神、コノ地ニ生ヲウケシモノ悪魔災難ヲ被ヒ、五穀豊カニナシ玉ヘ。亦タ此ノ土地ヨリ、身ヲ國ノ為ニ奉ル出征兵士ノ武運長久祈リ申サム。

土産大神、コノ倭姫、肉体モテシ輪孺香ノ願、君ヨリ授カリシコノ美壽紀、何卒長命ニナシ下サレタク、吾ガ勝手ノ願ナガラ、オ願致シマスル。題目、亦タ一ツニ吾ガ夫ノ災難被ヒ玉ヘ。題目、山神ニモノ申サン。題目供養シテヤル程ニ、汝モトクトク解脱セヨ。トモニ題目トナヘラレヨ。

亦タ此山（鳥見庄山）ニ鎮リマス矢追家代々ノ諸精霊ニ題目供養。題目、御宝前ニテ

「中将姫、

母君ニモノ申サン。母ガ罪障ハ吾ガ罪障。ワレ今日ノ日ヨリ禊ナシ、トモニ母ノ罪障ヌグイ候ハン。母上オワカリ申サヌカ、母ノ禊ハ真ノ禊ニアラズ。今日ノ

日ヨリ真ノ禊ナシ玉ヘ。母上オワカリニナリマシタカ。母上、吾レガ居ル為ノコノ罪障トクヌグイ申サン。母ト子ハ一ツナリ。其ノ一ツニナツテ共ニ解脱ノ行ヲ為サン。母上姫ヨリオ願ヒ致シマスル」

註釈

①天照太神

「大」ではなく「太」と表記されている。ここでは日本神話に登場するタカチホ族(神武系)の「天照大神」ではなく、自然神としての太陽神のことを指すと思われる。

②昭和維新

1930年代に、軍部急進派や右翼がかかげた国家革新の標語。明治維新になぞらえ、天皇親政の実現を目指した。(『広辞苑』岩波書店)

1930年代前半の日本の右翼運動が主張した国家の革新、国内の改造をよぶ言葉。1928年(昭和3年)藤井齊(ひとし)らの海軍青年将校が組織した王師会の綱領に「明治維新ヲ完成シ」という主張がみえるが、昭和維新という呼び方が広がったのは、五・一五事件(1932)からである。同事件の概文(げきぶん)が「維新日本ヲ建設セヨ」をうたい、同事件の被告三上卓(みかみたくし)海軍中尉が獄中で作詞したという「青年日本の歌」が「昭和維新の歌」として広がったことで、昭和維新は二・二六事件(1936)に至る国内改造運動の合い言葉となった。それは「皇道維新」と称されることもある。

しかし内容は政党、財閥を批判した天皇親政を主張するスローガンにとどまり、具体的な改

革の目標やプランを意味する言葉ではなかった。(小学館『日本大百科全書』による)

以上が一般的な「昭和維新」についての説明であるが、大倭においては、昭和の時代から始まる神々による世の立て直し(後に「黎明は訪れたり東方の光、大法は立てり、大倭太加天腹」を意味し、法主は現界におけるその中心的役割をされた。

法主の残された文章より法主の言われる「昭和維新」を見てみよう。

《「世界経綸の神業は、今より始まる。日聖よ、覚悟はよいか。」

天津大祖神の心、日聖の口をもって現わされた。

日聖は畏くも神命を拝し、
「かねての覚悟、御安心召し下され。」

と、恐み、恐みながら応答した。
日聖は大地に額ずいたまま頭が上がらなかった。

この時である。
「常夜のとばり明けそめて

神機は熟す秋はいま
大倭の神の子は

昭和維新の比登柱」

広い広い無限大なる虚空の奥から聞こえてきた感であった。ああ!! この垂示、日聖肝に銘じ、血涙魂からにじみ出る思い、日聖が使命更に認識を新たにすることがあった。》

(『やわらぎの黙示』44頁3行目〜13行目)

《十一月十二日、この日は顕幽を結んだ深い世界的意義をもっていた。》

(同46頁12行目「昭和維新」)

《祭政一致を根本義とする昭和維新は、いよいよ

よこの日から本格的な活動に入る。今はなき過去の人格霊の多くは、この神業の一翼を担ってそれぞれの霊力に応じた働きを顕界に示してゆく。

幸か不幸か、過去世からの宿命か、どうやら日聖は顕幽両界にまたがったこの神業の命たる霊格を神々から認められているらしい。だとすれば、天津神、地津神、八百萬余の神々は、日聖を中心にして各々その神力を現わすことになり、その霊的動きは日聖の一切の行動として顕界に働きかけることになる。使命をもった人々は近く日聖のもとに集まってくることも、神ながらにして現実の問題である。とはいえず、日聖は己が使命に甘んじ、霊格に自惚れて高座に据わり、御簾の内に納まることは許されない。

日聖は、人間日聖としての自覚に基づいて、日聖が信ずる道を人間としてあらゆる努力を試みる決意をもっている。一切陣頭指揮をとって、この限りある肉体を、この無限大なる大使命に殉ずる覚悟である。日聖は昭和維新の比登柱である。これ人生最高の喜びでもある。》

(同47頁6行目〜16行目)

※比登柱 現界と霊界をつなぐ者。

《昭和維新や神政復古などと高言すれば、恐らく現在の程度の科学盲信者(眞の科学者は除く)から、狂人もいい加減にせいとお叱りを受けるだろうが、私(影)はそれを信じもしなければ、疑いもしない。もしそれが真実であるならば、自己本霊がこの私を十分活用して、神意に添うような行動をとらせることと信ずるだけで、私の知ったことではない。》

(同52頁2行目〜5行目)

③世界第一ノクニトナル

現在も世界を覆っている覇権的な強大国にな

るという意味ではなく、大祖神の意向に沿った「かなながらの大法」(宇宙の大真理)を世に出す世界で最初の国になるとの意。

④大倭日高見国

「神通力如是」第四回(令和元年11月号)の註釈③「クニシズメマスカミ、イマスチ、オーヤマト、ヒダカミノクニ」ですすでに説明したように大倭日高見国というのは「日本国を鎮めている神(霊界人)が大倭神宮におられるということであり、この地が日本国の祖廟地であることを意味している」ということから大倭神宮を中心とした地域のことを指していると言えよう。

⑤此ノ郷

さと(里・郷)とは山中や田園地帯などで人家が集まって小集落をなしている所とか、都に対して田舎とか、ふるさとの意味。
(小学館『大辞泉』による)
ここでは大倭鶏の杜(大倭神宮)を中心とした地域(郷)のことである。

⑥出征兵士

軍隊の一員として戦地に行くこと。ここでは昭和16年12月の日米開戦以前であり、1937年(昭和12年)7月7日の盧溝橋事件を契機とする日本の全面的な中国侵略戦争。
「法主の弟、矢追隆義、隆盛の両名共に、兵士として中国大陸に行っていたと聞く」(杉本美壽紀)

訂正

5月号註釈

②前世1因果 ↓ 前世ノ因果

あじさい日記

6月10日 祇会の常連だった長谷川玲子さん(北九州市)が帰幽されたのは4月23日で、この日が五十日祭でした。「ステージ・フォーです」というお電話があって、一年以上上った頃、友人と来邑され「足はついてます」とにこやかに言われたのが最後の思い出となりました。五十日祭に一人で手を合わせていると法主さんが「ハセガワハワタクシヲステテ カエツテキヨッタゾ」とのことでした。私心を捨てての帰幽、見事な罪障消滅……。(杉本記)

6月11日 午後、交流の家でIWC定例委員会。

7月6日 大倭神宮月次祭。夜、大倭会館で倭倭の会。

6月15日 大倭神宮月次祭。4時から教務本庁で秋の文化行事について、奈良交通(株)の担当者と話合い。

6月17日 山梨県北杜市の川原田通高夫妻が初来邑。ネットでは読めない2001年12月号以前の『おおやまと』のPDFを「ご要望で、対応しました。」

6月23日 大倭大本宮月次祭。この日の法話は昭和39年6月23日月次祭より。平成23年6月号『おおやまと』に「地球の禊と私の使命」として掲載分。

6月26日 「デジタル言語学者という得丸久文さん(東京都世田谷区)が久しぶりに、今回はご夫妻で来邑。

東光大祭 祖霊祭 祭典のご案内

令和4年8月12日(金曜日・旧7月15日)

午前11時30分から、東方の碑で加美さまにご挨拶。正午から、奥津齋庭において祖霊祭が行われます。祖霊祭が終わり次第、拝殿に教長さんをお迎えして東光大祭が行われます。

祭典後、皆様各ご家庭の経木をお渡しします。祖霊祭の間、拝殿では法主様の東光大祭でのご法話や紫陽花邑の記録映像等をご用意します。

お願い 密集を避け、後日おこし下さるのはありがたいです。経木は拝殿でお預かりします。

大倭安宿苑では6月29日 3年以上4年未満の中堅職員研修会を実施。(菅原園)

6月11日 映画サークルでアニメ『パブル』を上映しました。(須加宮祭)

6月23日 水害の避難訓練(垂直避難)を行いました。(長曾根祭)

6月25日(日)で「七夕の壁掛け飾り」の作品づくり。

7月1日(特養) 長曾根創立56年記念日を行事食でお祝い。(茂毛路園)

6月24日 ご家族の直接面会を予約制で再開しました。(八重垣園)

あんない

大倭安宿苑では6月29日 3年以上4年未満の中堅職員研修会を実施。(菅原園)

6月11日 映画サークルでアニメ『パブル』を上映しました。(須加宮祭)

6月23日 水害の避難訓練(垂直避難)を行いました。(長曾根祭)

6月25日(日)で「七夕の壁掛け飾り」の作品づくり。

7月1日(特養) 長曾根創立56年記念日を行事食でお祝い。(茂毛路園)

6月24日 ご家族の直接面会を予約制で再開しました。(八重垣園)

特に変わりなし、でした。

8月6日(土) 午後2時より大倭神宮にて。
*大倭会主催祇会
8月7日(日) 大倭大本宮境内の清掃神事として午前9時より。なお大倭墓地清掃を午前8時から行います。
*東光大祭及び祖霊祭
8月12日(金) 上欄に詳細。
*大倭教立教開宣祭
8月15日(月) 午後2時より大倭神宮にて。
*月次祭(大本宮)
8月23日(火) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。

表紙写真について

北海道小樽市 守谷明宏

今年3月末をもって完全退職となり、退職祝いにと、5月に義母と私達夫婦の3人で登別、洞爺湖と温泉巡りをしました。行く時には曇り空でしたが帰りは天気がよく、「蝦夷富士」ともいわれる羊蹄山がきれいでした。羊蹄山の西隣には、ニセコアンヌプリという山があり、その麓は外国人のリゾート地として有名なニセコリゾートです。この二つの山に挟まれたところに「比羅夫」という地名があり、斉明天皇の時代(659年)に阿部比羅夫が征伐でここにまで来たという由来から付いています。羊蹄山の昔の呼び名だった「後方羊蹄」という言葉も、北海道南部の現在の地域名称のひとつである「渡島」という言葉も『日本書紀』に書かれているらしいですが、この記述を私はかなり懐疑的に見ています。また、『日本書紀』に出てくる「蝦夷」と、時代がかなり下って呼ばれるようになる「蝦夷」の混用により、阿弭流為はアイヌ人という人もいますが、大きな誤りだと私は思っています。これについてはまた機会があれば書きたいと思います。写真は比羅夫とは山を挟んで反対側の、京極町からの風景です。

第347回大倭会文化行事

～佐渡での法主様の足跡を訪ねて～

3年ぶりに秋の旅行を復活の予定です。

時期 令和4年10月29日(土) ～ 31日(月) 2泊3日

宿泊 [29日] 新潟県上越市 鷲の浜温泉 ロイヤルホテル小林
[30日] 同 佐渡市 桃華園

費用 [奈良から] 6万2千円
[関東方面から] 4万8千円
※鷲の浜温泉のホテルで待合せ

申込み 9月15日まで(人数制限あり)

問合せ 教務本庁 0742-45-1192
溝口富士男 080-3101-1639
林 修三 080-2527-0840

※但し、コロナ禍の動静により未確定とし、来月、判断します。